

ヨコハマトリエンナーレ2020のデジタル空間 エピソードX 7月3日(金)から始動

ヨコハマトリエンナーレ2020は、開幕に先駆け、7月3日(金)から「エピソードX(エックス)」を開始します。

「エピソードX」は、アーティスティック・ディレクター ラクス・メディア・コレクティブが、展覧会とともにキュレーションする「エピソード」の活動の一つです。ヨコハマトリエンナーレ2020のデジタル空間として、公式WEBサイト上で展開します。

「エピソードX」では、開幕の17日(金)まで毎日、公式WEBサイトに映像コンテンツをアップします。参加アーティストは、岩井優、アモル・K・パティルなどを予定しています。

スタートは、ヨコハマトリエンナーレ2020の当初の開幕日であった7月3日です。

開始日時：7月3日(金) 12時

エピソードX 配信動画：岩井優 《マジックアワー(エピソードのために)》

公式WEBサイトURL : <https://www.yokohamatriennale.jp>

20 ヨコハマ
トリエンナーレ
20 YOKOHAMA
TRIENNALE
AFTERGLOW
2020 7.17 (Fri) - 10.11 (Sun)

エピソードX >

チケットは日時指定の予約制です。 | 7月~8月分のチケット発売中! 購入はこちら >

20 ヨコハマ
トリエンナーレ
20 YOKOHAMA
TRIENNALE
AFTERGLOW

エピソードX >

2020 7.17 (Fri) - 10.11 (Sun)

チケットは日時指定の予約制です。

岩井優 《マジックアワー(エピソードのために)》
©Masaru IWAI, Courtesy of Takuro Someya Contemporary Art

エピソードX

—あるいは「コールド・オープン」で始まるデジタル空間

ひとつのパンデミックが知覚の向かう方向を変えてしまいました。本来、優先され、優位だったはずのことが、今ではかすみ、ひっくり返され、くらくらします。優劣の順に整理されていた経験や隔離されていた領域に現実が織り交ぜられ、無秩序な状態で立ちはだかります。あらかじめ計画されていたイベントや出来事は消散し、変動し、遠近の条件も逆転してしまいました。それは、まるでテレビドラマの制作でいう「コールド・オープン」——直接話に入った後にタイトルやオープニングを入れるテクニック——に放り込まれたかのようです。

「エピソードX」は、みなさんをこの「コールド・オープン」へと誘導するデジタルの点火装置です。ここでは、アーティストらとともに徐々に重ねていく時間がプロデュースされ、展覧会から枝分かれして、行為、まなざし、集まり、たまり場、別の場所の記録、あてのない散策、接触し交わろうとする思い、独白、対話、反応、そして青い絨毯の集いのような企画が加わっていきます。

「何キロも何キロも遊びを組み合わせて歩き続け、建物の規模を凌駕するほどの距離を歩き、ここに集まったエネルギーがついに建物からあふれ出す。そんなことをやってみたい」。「エピソードX」についてアーティストのランティアン・シエはこのように夢想します。

「エピソードX」は7月3日に開始し、そこから、いくつもの衝動（インパルス）を重ねていきます。そして、いずれ疲れ果てると同時に活力が沸き上がるまで続けていきます。そして、ついぞ最後まで辿り着くことなく、「エピソードX」の世界が当たり前になっているときが、やがてやってくるかもしれません。

ラクス・メディア・コレクティブ

Episōdo X

A pandemic has turned the wheels of perception. Priorities and primacies are blurred, upended, dizzy. Hierarchies of experience, zones of separation, are confronted with interlacing, scrambled realities. Events and occurrences dissipate, spiral. The conditions of proximity and distance are reversed. It is like being thrown into a 'cold opening' — a device in TV drama that plunges the viewer into the middle of the 'action' even before the title sequence and opening credits.

Episōdo X is a digital ignition, to help land feet first into this 'cold opening', to co-produce an accretive temporal experience that acts as an additional tributary of acts, of views, of assemblies, of hangouts, notes of/from other spaces, of roaming, of contaminatory intents, of soliloquies, of conversations, of responses and of gatherings with a blue carpet. As artist Lantian Xie dreams, '...to inaugurate kilometers and kilometers of walks of combinatory plays, more kilometers than the building can hold so that it overflows with the vitality of our assemblies.'

The Episōdo X timeline will start from July 3rd. It will keep accreting impulses until we are all exhausted and exhilarated at the same time. That time may never come, and Episōdo X may just become a way of living.

Raqs Media Collective

ヨコハマトリエンナーレ2020「AFTERGLOW—光の破片をつかまえる」
いま最も刺激あふれる現代アートは、横浜から世界へ

展覧会会期：2020年7月17日（金）～10月11日（日）

※開場日数78日、毎週木曜日休場（7/23、8/13、10/8を除く）

会場：横浜美術館、プロット48

アーティストック・ディレクター：ラクス・メディア・コレクティブ（Raqs Media Collective）

主催：横浜市、（公財）横浜市芸術文化振興財団、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会

公式WEB：https://www.yokohamatriennale.jp

Twitter：@yokotori_

チケットは日時指定の事前予約制です

【プレスリリースお問い合わせ】ヨコハマトリエンナーレ2020広報事務局（株式会社プラップジャパン：横澤、本郷、増田）
E-MAIL：yokotori2020pr@prap.co.jp TEL 03-4580-9109

【横浜トリエンナーレ組織委員会 お問い合わせ】横浜トリエンナーレ組織委員会事務局広報担当（高橋）
E-MAIL：press@yokohamatriennale.jp TEL 045-663-7232（平日10:00～18:00）